

科目名	教職入門A		
担当教員名	日出間 均、増田 吉史、松岡 敬明		
ナンバリング	KBa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「教職入門」は、教育職員免許法に定められた教職科目(「教職の意義等に関する科目」)で、教育職員免許状を取得(大学で教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける)ための入口にあたる教科です。講義・演習の内容は「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容(研修、服務、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供」などです。

科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す1年生(児童教育学科)です。前期に、最初の教職科目として、体験や事前の予習を元に、『教師の仕事とは何か』ということをもさまざまな角度から学修します。

この科目を履修した後に、教育の原理や原則に関する科目(教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目(学校関係法規)、教育の心理に関する科目(教育心理学)を学修します。

学修目標 (= 到達目標)

具体的な内容は、国家存立の基盤としての教育を支え、発展させる教員への期待や、教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、問題解決討議法、事例研究法(インシデント・プロセス法)などを援用し、その成果をもとに新たな課題を追究できるようになることをねらいとしています。

内容

教師の使命を果たすために不可欠な資質や能力を身に付けるための基礎的な知識や技能を修得し、これを活用して、種々の教育課題を追究したり、課題解決したりすることを通して、教職の意義、教員の役割、職務内容、研修・研究等についての情報を収集し、自らの教師像を描く。自らの能力・適性について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための方法を明らかにする。教員免許取得に向けた教職課程の履修に係る学習計画を立て、教職に就くための学内の機能の活用について、見通しをもつ。

1	オリエンテーション(新しい時代の教師)～なぜ教師を目指したのか?～	増田・松岡・日出間
2	教師の一日 ～出勤から退勤まで～	増田
3	教師の魅力・やりがい ～学級担任の魅力～	増田
4	専門職としての教員と人権教育の推進	増田
5	基本的な教育法規	増田
6	教育公務員の服務	松岡
7	教育公務員の研修	松岡
8	学習指導要領について	松岡
9	教育課程の編成と実施	松岡
10	事例研修1(Q&A)よりよい授業について ～発問・板書・ノート指導等～	日出間
11	事例研修2(Q&A)よりよい児童の生活について ～健康・安全に関わること～	日出間
12	事例研修3(Q&A)よりよい児童の生活について ～生徒指導に関わること～	日出間
13	事例研修4(Q&A)よりよい学級づくりについて ～清掃指導・給食指導に関わること～	日出間
14	事例研修5(Q&A)よりよい学級づくりについて ～保護者対応に関わること～	日出間

評価

授業への参加度と毎時間提出する小レポート（60点）、最終試験（40点）として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理し、これをもって授業に臨むこと。

【事後学修】修得した知識や問題解決技法等で得た知見を記録するとともに、授業で取上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考究し、レポートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領』（平成20年3月文部科学省告示）、『小学校学習指導要領解説「総則」』（平成20年3月文部科学省刊）、

【参考図書】授業時に指示する。

科目名	教育学概論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa202		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

第1回：「人間とは何か」という問いから考える；教育は人間社会に固有な営み；生物としてのヒトの特性

第2回：ルソーの『エミール』と「子どもの発見」；進化する生物、進歩する人間；「学ぶ」能力と「教える」能力

第3回：「学ぶ」ことと、新しい能力を手に入れる喜び；発達developmentと教育education；発達への

助成的介入としての教育

第4回：個性の形成と遺伝、環境；教育と教育にあらざるもの；「こやらい」の世界

第5回：共同体の人間形成システムと通過儀礼；教育することへの自覚；教育という言葉の2つの用法

第6回：「学校」とはどういう場か；なぜ「学校」が必要になったか；中世の学校

第7回：近代への準備；近世の学校；「近代公教育」とは；なぜすべての子どもが学校に通うようになったのか

第8回：市民革命と近代公教育；実際に成立してきた近代公教育制度の性格；学校の成立：古代律令制度国家の学校

第9回：中世の学校：宗教との結合；近代学校への準備；幕末維新期の教育機関；日本における近代公教育制度の成立とその性格

第10回：教育政策をめぐる路線の対立；教育勅語体制の成立；戦前学校体制の整備・確立

第11回：映像で学ぶ教育学「風の橋」(中国雲南省の少数民族ヤオ族における人間形成)

第12回：映像で学ぶ教育学「カンジとパンパニーシャ」(スー・ザベージ・ランボー博士の研究)

第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」(イギリス産業革命期の少年労働)

第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」(斎藤喜博と島小の学校づくり)

第15回：まとめ

評価

講義で毎回書いてもらう学修票 (80点) と班ごとの発表 (20点) を総合し、60点以上を合格点として単位認定します。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理して、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、各自の振り返りレポートを作成します。次回提出して下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（新版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学A		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KBa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布される課題問題をもとに教科書を読み解答をしておくこと

【事後学修】授業ないで使用/記入したプリントをノートにまとめ直す

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	学校制度論 A		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBa201		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は教員免許状取得のための必修科目であり、「教職に関する科目」の中の「教育の基礎理論に関する科目」として位置づけられている。内容として教育に関する社会的、制度的または経営的事項を含む。

科目の概要

教育制度の基本原則、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解する
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解する
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解する

内容

1	教育制度とは何か
2	教育制度と学校体系
3	我が国の学校制度
4	諸外国の学校制度
5	憲法・教育基本法と戦後教育の基本原則
6	教育行政制度 (中央教育行政組織と地方教育行政組織)
7	学校制度と児童生徒 (1) 就学・初等中等教育
8	学校制度と児童生徒 (2) 懲戒・学校事故
9	学校制度と教員・校長 (1) 職務・任用
10	学校制度と教員・校長 (2) 服務・懲戒
11	学校制度と教員・校長 (3) 研修・その他
12	学校制度と教育課程 (学習指導要領・教科書)
13	学校評価の意義と課題
14	教育制度をめぐる今日的課題
15	まとめ

評価

- 1 授業ごとの課題提出 (30%) 2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの予習

【事後学修】新聞記事の中から教育制度にかかわるものを探し考察

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「自ら学び考える教職教養 教育課程・方法・制度・法規」（松田・星野・狩野・津吹）

学文社

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	吉川 知夫、岩井 雄一、齋藤 忍		
ナンバリング	KBa205		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容	
1	特別支援教育とは（担当；吉川）
2	障害児教育の歴史と発展（担当；吉川）
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に （担当；岩井）
4	特別支援教育体制の現状とインクルーシブ教育システムの構築（担当；岩井）
5	特別支援教育における教育課程の編成（担当；吉川）
6	障害の理解と教育的支援1）視覚障害・聴覚障害・言語障害（担当；吉川）
7	障害の理解と教育的支援2）知的障害（担当；岩井）
8	障害の理解と教育的支援3）肢体不自由・病虚弱（担当；吉川）
9	障害の理解と教育的支援4）情緒障害・自閉症スペクトラム障害（担当；齋藤）
10	障害の理解と教育的支援5）LD（学習障害）・AD/HD（注意欠如／多動性障害）（担当；齋藤）
11	特別支援教育の展開1）小・中学校における校内支援と連携システム（担当；齋藤）
12	特別支援教育の展開2）特別支援学校の地域支援と連携システム（担当；岩井）
13	特別支援教育における関係機関の連携1）保育所・幼稚園の活用とその利用（担当；齋藤）
14	特別支援教育における関係機関の連携2）医療・福祉機関の役割とその活用（担当；齋藤）
15	まとめ（担当；岩井）

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に事前に参考書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】「特別支援教育基礎論」吉田昌義、鳥居深雪編著、放送大学出版 「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所著作、ジアース教育新社発行

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、齋藤 忍		
ナンバリング	KBa208		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

知的障害児・者（肢体不自由児・者、病弱児・者）の障害特性と教育の目標、内容、方法について基礎的な知識を学ぶ。
個々の児童生徒に応じた指導・支援の在り方の理解を学ぶ。

科目の概要

知的障害（肢体不自由、病弱）の定義、原因、分類、アセスメント及び行動特徴を心理的側面から学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

学校現場における指導、ケース検討を通して認知発達の状況の把握と教育のもつ意味の理解を図る。

内容

1	知的障害（肢体不自由、病弱）の定義（岩井）
2	知的障害（肢体不自由、病弱）の原因と分類（岩井）
3	知的障害の特徴（1）認知特性（齋藤）
4	知的障害の特徴（2）記憶と学習（齋藤）
5	知的障害の特徴（3）運動（岩井）
6	言語とコミュニケーション（齋藤）
7	アセスメントの基礎（齋藤）
8	発達検査、知能検査（齋藤）
9	発達障害の特性と支援（齋藤）
10	個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と活用（岩井）
11	知的障害（肢体不自由、病弱）の学校での支援（岩井）
12	知的障害児（幼児、小学部、中学部）のケース検討と教育実践（齋藤）
13	知的障害児（高等部と就労支援）のケース検討と教育的支援（岩井）
14	障害者の権利条約とインクルーシブ教育システム（岩井）
15	まとめ（岩井）（齋藤）

評価

筆記試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回のテーマについて連絡し、事前課題を指示する。

【事後学修】振り返りの課題や資料等を整理し、授業内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】毎時間資料を配布し、資料に沿って授業を進める。

【推薦書】授業内で必要な書籍等は紹介する。

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング	KBa307		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：肢体不自由教育の現状と課題についての基礎的理解を深め、それを基に肢体不自由教育の今日的課題に対する解決の方策を主体的に追求する姿勢を育成することを目的とする。本授業では、肢体不自由教育の歴史的変遷及び今日的課題について学び、主要な教育課題である教育内容・指導法について講述する。

学修の目標：1)特別支援教育における肢体不自由教育の特徴を歴史的展開の中で把握すること、2)肢体不自由教育の現状と課題について理解すること、3)今日的課題を解決する方策を追求して今後の方向性を修得することの3点である。

内容

1	肢体不自由教育の実際とその理解
2	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状の課題
3	肢体不自由児の就学指導と進路指導
4	肢体不自由教育の教育課程
5	肢体不自由児に対する指導形態等の工夫
6	各教科等の指導の工夫
7	肢体不自由児の指導法 1
8	肢体不自由児の指導法 2
9	肢体不自由児の指導法 3
10	肢体不自由児の指導法 4
11	交流及び共同学習
12	肢体不自由児のキャリア教育
13	授業づくりの基本
14	学習指導案の作成方法
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (30点)、筆記試験 (30点)、毎回のリアクションペーパー (20点)、通常の受講時の態度 (20点) を加味して、総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】参考図書等、関連する文献を読んでおくこと。

【事後学修】授業で配布された資料を参考に、毎回出題する課題について理解をすること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。毎回授業時に資料を配付する。

【参考図書】「肢体不自由教育の基本とその展開」日本肢体不自由教育研究会監修 慶應義塾大学出版会

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育概論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング	KBa308		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。
ここでは、病弱教育に関する基本的な事項について学び、次年度に病弱教育課程論を学修する。

科目の概要

初めに病弱教育の歴史を概観する。
その後、病弱教育の対象とされる子どもの実態や病弱教育の現状について把握した上で、教育上の
配慮事項、病弱教育の意義、病弱教育に携わる教師の役割等について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- 病弱教育の対象とされる子どもや特別支援学校等に関する現状を理解する。
- 病気の子どもの実態と病弱教育における配慮事項について理解する。
- 病弱教育の意義と学校における取組の課題、病弱教育に携わる教師の役割等について理解する。

内容

1	病弱教育の歴史（１）
2	病弱教育の歴史（２）
3	病弱の子ども（１）
4	病弱の子ども（２）
5	病弱教育の現状（１）
6	病弱教育の現状（２）
7	病弱教育の現状（３）
8	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成（１）
9	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成（２）
10	病弱教育における配慮事項
11	病院等、関係諸機関との連携
12	通常学級における病弱の子どもへの支援
13	病弱教育の意義と学校における取組
14	病弱教育に携わる教師
15	まとめ

評価

筆記試験 70% 学修目標に関するレポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】病弱児、病弱教育について知っていること、わからないことを整理する。

シラバスを参照し、各時間または全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。

【事後学修】プリントや説明内容を再度確認して理解を深め、不明な点は質問等により理解を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業においてプリントを配布する。

科目名	教育課程論 A		
担当教員名	大友 みどり、狩野 浩二		
ナンバリング	KBa312		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科 (国語・算数など)、領域 (道徳・特別活動など) 等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します (順不同)。

1. これからの時代における教育課程 (狩野・大友)
2. 生活綴方とは何か (狩野)
3. 児童の村が遺したもの (狩野)
4. 授業で勝負する教師 (狩野)
5. 学習指導要領と教育課程 (大友)
6. 学習指導要領改訂の方向性 (大友)
7. 学校における教育課程編成の手順 (大友)
8. 組織としての学校・学校経営と学級編成 (大友)
9. 組織としての学校・校務分掌と学級経営 (大友)
10. 年間指導計画と学習指導 (大友)
11. 学習形態と学習指導 (大友)
12. 教科指導と生徒移動 (大友)
13. 特別活動と学級づくり (大友)
14. 授業における教師の役割 (大友)
15. まとめ・振り返り (狩野・大友)

評価

レポート50点、授業への参加度50点を総合して評価し、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】文部科学省『小学校学習指導要領』

田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二『やさしい教育原理』有斐閣アルマ、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』教育出版

箱石泰和編『授業＝子どもとともに探求する旅』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	曾 貧		
ナンバリング	KBa313		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科（英語・国語など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票（20点）、課題研究（80点）とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	曾 貧		
ナンバリング	KBa313		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科 (英語・国語など)、領域 (道徳・特別活動など) 等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票 (20点)、課題研究 (80点) とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博 『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫 『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編 『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編 『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa314		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭一種免許状, 幼稚園教諭一種免許状を取得するための必須科目である。

科目の概要

小学校学習指導要領に基づき, 「国語科」の目標と内容について理解する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」については, 指導内容と活動とを結び付けて学ぶ。「読むこと」については, 教材研究, 学習指導案の作成を行う。また, 新学習指導要領で各教科を通じて重視されている「言語活動」について, その背景と, 授業づくりへの生かし方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

「国語科」の学習内容に関心をもち, 積極的に授業づくりについて考えようとする。
 学習指導要領の内容と教材・題材を結び付けて, 簡単な学習指導案を作成する。
 学習指導要領国語の目標と内容について, 基礎的な知識を身に付ける。

内容

1	ガイダンス～子どもの学力の状況, 今, 求められる学力と教育の動向～
2	教育課程における国語科の位置, 学習指導要領の理解
3	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
4	「話すこと・聞くこと」領域の内容と指導 ～言語活動～
5	「話すこと・聞くこと」領域の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
6	「書くこと」領域の内容と指導 ～言語活動～
7	「書くこと」領域の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
8	国語科における学習評価の基本的な考え方
9	「読むこと」領域の内容と指導 ～言語活動～
10	「読むこと」領域の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
11	「単元」の考え方と一単位時間の指導の展開
12	伝統的な言語文化に関する指導
13	文字の指導, 語句・語彙の指導
14	書写の指導の基本
15	これからの国語科教育の在り方～振り返りとまとめ～

評価

毎回の小レポートや作成物の内容(60%), 最終的な論述レポート(40%)とし, 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に、小レポート（リアクションペーパー）の提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成20年9月，東洋館出版社）

【推薦書】『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』（平成23年11月，教育出版）

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	日出間 均、増田 吉史		
ナンバリング	KBa315		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「算数」の上に立ち、小学校算数科の目標、内容、指導方法等を理解することをねらいにおく。

科目の概要

小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法の在り方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を参考に、指導計画を作成し、実際の授業の在り方を考える。

学修目標（＝到達目標）

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

尚、習熟度（学生の意志）により2クラスの少人数指導を取り入れる。ただし目標と評価は同じとする。

内容	
1	算数科指導のポイント
2	小学校第1学年（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
3	小学校第1学年（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
4	小学校第2学年（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
5	小学校第2学年（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
6	小学校第3学年（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
7	小学校第3学年（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
8	小学校第4学年（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
9	小学校第4学年（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
10	小学校第5学年（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
11	小学校第5学年（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
12	小学校第6学年（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
13	小学校第6学年（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
14	数学的な思考力・表現力の育成と問題解決力育成のための授業改善
15	振り返りとまとめ

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、試験（20%）で評価。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

指導計画の作成、指導案の作成を行う。

【事後学修】

授業評価と改善点の確認を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】学力向上フロインティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び 4 - 6年実践編」明治図書

【参考図書】

算数教育研究協議会用テキスト 埼玉県算数数学教育研究会小学校部会

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	日出間 均、増田 吉史		
ナンバリング	KBa315		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「算数」の上に立ち、小学校算数科の目標、内容、指導方法等を理解することをねらいにおく。

科目の概要

小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法の在り方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を参考に、指導計画を作成し、実際の授業の在り方を考える。

学修目標 (= 到達目標)

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

尚、習熟度 (学生の意志) により2クラスの少人数指導を取り入れる。ただし目標と評価は同じとする。

内容	
1	算数科指導のポイント
2	小学校第1学年 (数と計算、量と測定) の指導計画、指導案、その模擬授業
3	小学校第1学年 (図形、数量関係、算数的活動) の指導計画、指導案、その模擬授業
4	小学校第2学年 (数と計算、量と測定) の指導計画、指導案、その模擬授業
5	小学校第2学年 (図形、数量関係、算数的活動) の指導計画、指導案、その模擬授業
6	小学校第3学年 (数と計算、量と測定) の指導計画、指導案、その模擬授業
7	小学校第3学年 (図形、数量関係、算数的活動) の指導計画、指導案、その模擬授業
8	小学校第4学年 (数と計算、量と測定) の指導計画、指導案、その模擬授業
9	小学校第4学年 (図形、数量関係、算数的活動) の指導計画、指導案、その模擬授業
10	小学校第5学年 (数と計算、量と測定) の指導計画、指導案、その模擬授業
11	小学校第5学年 (図形、数量関係、算数的活動) の指導計画、指導案、その模擬授業
12	小学校第6学年 (数と計算、量と測定) の指導計画、指導案、その模擬授業
13	小学校第6学年 (図形、数量関係、算数的活動) の指導計画、指導案、その模擬授業
14	数学的な思考力・表現力の育成と問題解決力育成のための授業改善
15	振り返りとまとめ

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業 (80%)、試験 (20%) で評価。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

指導計画の作成、指導案の作成を行う。

【事後学修】

授業評価と改善点の確認を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】学力向上フロインティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び 4 - 6年実践編」明治図書

【参考図書】

算数教育研究協議会用テキスト 埼玉県算数数学教育研究会小学校部会

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、岩田 泉、井口 磯夫		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修である。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、小学校学習指導要領をもとに、人間形成からみた小学校理科の授業が目指すこと。 は、小学校学習指導要領の理科における構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法を構成し、展開する学習指導方法。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、各回で実験の模擬授業を行い、学生自身が理科の学習内容に親しみ、教える技術を身に付ける。

学修目標（=到達目標）

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業を構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成や模擬授業の計画を通し、授業を構想することができる。エ、構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。

内容

現今の理科教育の目標は、科学的な見方考え方をはぐくむことである。このことは、人格形成のみならず、社会生活に不可欠なことからである。本授業では、学習指導要領の変遷、理科教育の目標などについて調べたり、実際の授業を想定したり、学校インターンシップでの体験を活かし、理科教育の目的や内容・方法を理解する。また、理科授業の在り方や、理科指導法の知識や技能を身に付け、活用できるようにする。

1	ガイダンス (1)教員としての資質・能力を育む科目「初等理科教育法」の内容・方法
2	理科が目指す教育 (1)自然を探究し科学する心を育てる教師 (2)理科教育と人格形成
3	理科教育の歴史 (1)1945年以前の理科教育 (2)1947年以降の理科教育
4	学習指導要領の変遷 (1)社会の変容と学習指導要領 (2)理科の目標と内容から目指す教育
5	(1)指導計画と単元構成を検討 (2)授業記録から問題解決の方法と学習過程の検討
6	(1)科学的思考力の育成 (2)理科における習得、活用、探究の過程と指導の工夫
7	(1)観察・実験、情報活用を中心として授業とその導入 (2)問題解決能力を育てる板書、発問
8	(1)観察・実験の意義と効果的な授業 (2)観察、実験の記録と活用の仕方
9	(1)観察・実験の素材と準備 (2)児童の学習意欲を高める理科の教材とその研究の進め方
10	(1)観察・実験と事故防止と理科室等の経営 (2)危険を伴う実験と安全対策
11	(1)野外学習における事故防止 (2)ESD(持続可能な発展のための教育)と理科の授業設計
12	(1)指導と評価の一体化を図る授業設計 (2)子供の諸能力を伸ばす理科の評価とその方法
13	(1)授業の計画と実際の授業の進め方 (2)授業の構想と課題、理科授業における諸課題への対応
14	(1)授業研究の方法と工夫 (2)小学校での理科授業と授業研究に参画
15	まとめ (1)理科授業の構想と理科を通して育てたい子ども像 (2)学習指導案の作成と活用

評価

観察・実験ごとのワークシート50%、模擬授業のレポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】反転学習の形態を援用した授業を行う。よって、次時の課題を明示する。また、本シラバスに明示した「内容」に即して、学習の計画を立て、事前準備を行うこと。

【事後学修】事前学習の成果を問題解決討議法等の手法を援用した授業で活かし、習得したことを資に、学習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』

文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

国立教育政策研究所

『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

【推薦書】なし

【参考図書】日置光久他編著『シリーズ日本型理科教育 1～5』東洋館出版社

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、岩田 泉、井口 磯夫		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育課程及び指導法に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修である。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、小学校学習指導要領をもとに、人間形成からみた小学校理科の授業が目指すこと。 は、小学校学習指導要領の理科における構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法を構成し、展開する学習指導方法。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、各回で実験の模擬授業を行い、学生自身が理科の学習内容に親しみ、教える技術を身に付ける。

学修目標（=到達目標）

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことをもとに授業を構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成や模擬授業の計画を通し、授業を構想することができる。エ、構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行う中でよりよい授業を構想することができる。

内容

現今の理科教育の目標は、科学的な見方考え方をはぐくむことである。このことは、人格形成のみならず、社会生活に不可欠なことからである。本授業では、学習指導要領の変遷、理科教育の目標などについて調べたり、実際の授業を想定したり、学校インターンシップでの体験を活かし、理科教育の目的や内容・方法を理解する。また、理科授業の在り方や、理科指導法の知識や技能を身に付け、活用できるようにする。

1	ガイダンス (1)教員としての資質・能力を育む科目「初等理科教育法」の内容・方法
2	理科が目指す教育 (1)自然を探究し科学する心を育てる教師 (2)理科教育と人格形成
3	理科教育の歴史 (1)1945年以前の理科教育 (2)1947年以降の理科教育
4	学習指導要領の変遷 (1)社会の変容と学習指導要領 (2)理科の目標と内容から目指す教育
5	(1)指導計画と単元構成を検討 (2)授業記録から問題解決の方法と学習過程の検討
6	(1)科学的思考力の育成 (2)理科における習得、活用、探究の過程と指導の工夫
7	(1)観察・実験の意義と効果的な授業 (2)観察、実験の記録と活用の仕方
8	(1)観察・実験、情報活用を中心として授業とその導入 (2)問題解決能力を育てる板書、発問
9	(1)観察・実験の素材と準備 (2)児童の学習意欲を高める理科の教材とその研究の進め方
10	(1)観察・実験と事故防止と理科室等の経営 (2)危険を伴う実験と安全対策
11	(1)野外学習における事故防止 (2)ESD(持続可能な発展のための教育)と理科の授業設計
12	(1)指導と評価の一体化を図る授業設計 (2)子供の諸能力を伸ばす理科の評価とその方法
13	(1)授業の計画と実際の授業の進め方 (2)授業の構想と課題、理科授業にお諸課題への対応
14	(1)授業研究の方法と工夫 (2)小学校での理科授業と授業研究に参画
15	まとめ (1)理科授業の構想と理科を通して育てたい子ども像 (2)学習指導案の作成と活用

評価

観察・実験ごとのワークシート50%、模擬授業のレポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】反転学習の携帯を援用した授業を行う。よって、次時の課題を明示する。また、本シラバスに明示した「内容」に即して、学習の計画を立て、事前準備をすること。

【事後学修】事前学習の成果を問題解決討議法等の手法を援用した授業に活かし、修得したことを資に、学習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』

文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

国立教育政策研究所

『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

【推薦書】なし

【参考図書】日置光久他編著『シリーズ日本型理科教育 1～5』東洋館出版社

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科が取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の流し方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表と振り返り（その1）
6	保健内容ポスター発表と振り返り（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動～実技を踏まえて
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動～実技を踏まえて
10	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成の基本的理解と実践（作業）
12	授業観察の方法と理解（授業評価を含む）
13	体育模擬授業と振り返り（その1）
14	体育模擬授業と振り返り（その2）
15	まとめ

評価

発表活動20%、レポート40%、試験20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。また、

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、

「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科が取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の流し方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表と振り返り（その1）
6	保健内容ポスター発表と振り返り（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動～実技を踏まえて
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動～実技を踏まえて
10	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成の基本的理解と実践（作業）
12	授業観察の方法と理解（授業評価を含む）
13	体育模擬授業と振り返り（その1）
14	体育模擬授業と振り返り（その2）
15	まとめ

評価

発表活動20%、レポート40%、試験20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。また、

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、

「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格
3	子どもの発達と造形表現
4	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
5	図画工作科の授業 (1) 造形遊び
6	図画工作科の授業 (2) 絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業 (3) 絵や立体、工作に表す活動
8	図画工作科の授業 (4) 絵や立体、工作に表す活動
9	図画工作科の授業 (5) 紙版画
10	図画工作科の授業 (6) 木版画
11	図画工作科の授業 (7) 木版画
12	図画工作科の授業 (8) 木版画
13	図画工作科の授業 (9) 木工作演習2: のこぎり・糸のこ
14	図画工作科の授業 (10) 木工作演習2: のこぎり・糸のこ
15	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する (60点)。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること (適宜・指示します)。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

・福田隆真・茂木一司・福本謹一『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

・大橋功『美術教育概論』日本文教出版

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格
3	子どもの発達と造形表現
4	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
5	図画工作科の授業 (1) 造形遊び
6	図画工作科の授業 (2) 絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業 (3) 絵や立体、工作に表す活動
8	図画工作科の授業 (4) 絵や立体、工作に表す活動
9	図画工作科の授業 (5) 紙版画
10	図画工作科の授業 (6) 木版画
11	図画工作科の授業 (7) 木版画
12	図画工作科の授業 (8) 木版画
13	図画工作科の授業 (9) 木工作演習2: のこぎり・糸のこ
14	図画工作科の授業 (10) 木工作演習2: のこぎり・糸のこ
15	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する (60点)。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること (適宜・指示します)。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

・福田隆真・茂木一司・福本謹一『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

・大橋功『美術教育概論』日本文教出版

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	堀竹 充		
ナンバリング	KBa320		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。教科としてどのような目標を持ち、社会科の教科指導を各学年の内容に基づきどのような順にどのような指導方法によって進めるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

小学校社会科の教材を取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいによって、どのように児童に学習させていくか、教材を作成を通し、教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し深める。

学修目標

社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深めると共に、それらを基に授業実践に取り組める実践的指導力を養う。

内容	
1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業の進め方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・指導に活用する資料づくり（1）
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり（2）
13	社会科の模擬授業の実際（1）
14	社会科の模擬授業の実際（2）
15	社会科の模擬授業の実際（3） ・まとめ

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各時間に学修する社会科指導の進め方や内容について、事前に調べ確認しておく。それに基づく

講義やグループ活動を、毎時1時間

【事後学修】学習したことを毎時間、レポート等にまとめる。毎時、後半の30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 児童用教科書
- ・ 教科書の教師用研究物

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBa321		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校 1, 2 年の教科 生活科について学習指導要領に基づいて教科の目標や特性について理解し、教材研究や具体的な体験などを通して、生活科の主旨を踏まえた授業を構想、実践できるよう内容を構成した。

科目の概要

生活科の特性を様々な領域から理解を深めていく。実際に屋外での学習活動も取り入れ、子どもの目の高さに映る視野を意識しながら、授業づくりや授業場面での教師の役割などについて考えていく。幼保小の学びと育ちを滑らかに接続するスタートカリキュラムの現状にもふれる。

学修目標 (= 到達目標)

学習指導要領を踏まえた指導計画、学習指導案を作成することができる。気づきや思考、表現など低学年児童の認識過程を理解し、指導・支援・評価計画を作成することができる。 幼保小の接続を図るスタートカリキュラムに関心をもったり作成したりすることができる。

内容	
1	生活科の授業を振り返る 生活科授業の特性
2	生活科創設の経過と背景 教科目標 学年目標
3	内容構成の具体的な視点 内容構成と階層性
4	内容 (1) (2) (3) 教科書分析
5	内容 (4) (5) (6) (7) 教科書分析
6	内容 (8) (9) 教科書分析
7	授業の実際 授業記録分析
8	授業づくり 単元構成 学習過程 学習活動
9	授業づくり 思考・表現 気付き
10	授業づくり 指導者の役割 評価
11	模擬授業 教材研究
12	模擬授業 授業展開
13	模擬授業 授業分析 評価
14	スタートカリキュラムの概要
15	小学校教育における生活科の使命

評価

毎回の授業レポート (30%) 授業での課題レポート・課題作品 (40%) 授業への参加度 (30%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回の授業で扱う項目についてテキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に出席すること

【事後学修】授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深める努力する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 日本文教出版

【推薦書】小学校生活科教科書「せいかつ」（上・下）

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、山本 悟、日出間 均		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

前期で、国語・算数・体育について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科の学習指導案作成の基本を理解する。

内容

小学校で学習するそれぞれの教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1 Aクラス：国語，算数，体育 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1 Bクラス：国語，理科，社会 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

評価

小レポート（40%），授業への取り組み（30%），最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科の『小学校学習指導要領解説』。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、廣坂 多美子、宮川 保之、岩田 泉		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

前期で、国語・理科・社会について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科の学習指導案作成の基本を理解する。

内容

小学校で学習するそれぞれの教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1 Aクラス：国語，算数，体育 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1 Bクラス：国語，理科，社会 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

評価

小レポート（40%），授業への取り組み（30%），最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科の『小学校学習指導要領解説』。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究 B		
担当教員名	清水 玲子、山本 悟、日出間 均		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

後期で、音楽・算数・体育について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究 B」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科の学習指導案作成の基本を理解する。

内容

小学校で学習するそれぞれの教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究 B」は、以下の2クラスで開講する。

2 Aクラス：音楽，算数，体育 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

2 Bクラス：音楽，理科，社会 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

評価

小レポート (40%) ，授業への取り組み (30%) ，最終レポート等 (30%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科の『小学校学習指導要領解説』。その他、適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究 B		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、宮川 保之、岩田 泉		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

後期で、音楽・理科・社会について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究 B」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科の学習指導案作成の基本を理解する。

内容

小学校で学習するそれぞれの教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究 B」は、以下の2クラスで開講する。

2 Aクラス：音楽，算数，体育 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

2 Bクラス：音楽，理科，社会 についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

評価

小レポート (40%) ，授業への取り組み (30%) ，最終レポート等 (30%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科の『小学校学習指導要領解説』。その他、適宜授業の中で指示する。

科目名	道徳教育 B		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳科の授業の果たす役割について理解し、「道徳科」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳科」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳科の時間の指導
8	8	「道徳科」の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳科の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	「道徳科」の模擬授業の計画
13	13	模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14	模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

科目名	特別活動A		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBa327		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標 (= 到達目標)

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	学級活動(2)の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	学級活動(1)の展開事例と指導	
8	児童会活動	児童会の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	クラブ活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	学校行事の目標・内容・指導計画等	望ましい実施と指導上の配慮事項
11	総合的な学習の時間と特別活動	
12	学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	模擬授業の実践(1) 学生の選択した主題	
14	模擬授業の実践(2) 学生の選択した主題	
15	模擬授業の評価とまとめ	

評価

平常のレポート課題30% 学習参加度30% 課題提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	特別活動 B		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教職に関する科目のうち中学校・高等学校教諭免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」に、また養護教諭免許取得に必要な「教育課程に関する科目」当たります。いずれも、中学校・高等学校教諭及び養護教諭の免許状を取得しようとする場合は、必修になります。

科目の概要

特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標としています。学習指導要領に示された特別活動の趣旨にそった指導ができるよう、指導案作成を念頭におきながら、具体的に考察します。

学修目標 (= 到達目標)

- ・特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の領域ごとの特色について理解する。
- ・学級活動の授業の進め方をはじめ、学級経営について考察し、指導の在り方を理解する。
- ・領域ごとの学習指導案を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション (授業の進め方と学修目標)
2	特別活動の目的と展開
3	特別活動の指導と評価
4	学級活動について (1)
5	学級活動について (2)
6	学級活動について (3)
7	生徒会活動について (1)
8	生徒会活動について (1)
9	学校行事について (1)
10	学校行事について (2)
11	学校行事について (3)
12	指導案の考察 (1)
13	指導案の考察 (2)
14	指導案の発表
15	まとめ

評価

授業への参加度と毎時間提出する小レポート (40点)、指導案の作成・発表 (60点) とし、総合評価60点以上を合格

とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当ページを読んでから授業に臨む。

【事後学修】毎回の授業後に、所定のレポートを提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省)

科目名	教育方法A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa329		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む) 」となっている。

本科目では、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考え、その原理や原則について追究するものである。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

以下に取り扱う内容を示す (順不同) 。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術 (教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など)
- 2 授業が目指すものは何か (授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性)
- 3 授業の構想と計画 (構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究)
- 4 指導案作成 (実習課題)
- 5 教えることと支援すること (本気で教えること、学習支援と称して放置すること)
- 6 問いの創造と授業の展開 (問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態)
- 7 教材づくり・教材発掘の視点 (教材づくり・教材発掘の視点、教材研究)
- 8 授業と教授メディア (教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか)
- 9 コンピュータの利用 (コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割)
- 10 学習障害 (LD) の理解と指導 (学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法)
- 11 特別支援教育と方法・技術 (特別支援教育、Normalization, ADHD)
- 12 授業と教師 (教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば)
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題 (予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力)
- 15 まとめ

評価

評価は、授業態度 (授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況) を10%、課題の提出状況と達成度を90%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を予め読み、概要をまとめ、疑問点を析出します。講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習した個別学修内容と比較検討し、振り返りレポートを作成します

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	教育方法B		
担当教員名	安達 一寿、井口 磯夫、星野 敦子		
ナンバリング	KBa330		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

内容

1	1．教育の目的と方法（ガイダンス）（星野）
2	2．教育方法の基礎理論（星野）
3	3．学習理論の展開（星野）
4	4．問題解決学習の方法（星野）
5	5．学習形態と学習指導（星野）
6	6．教育課程の編成（星野）
7	7．授業設計の手順と教材研究（井口）
8	8．目標分析と評価問題の作成（井口）
9	9．学習評価の理論（井口）
10	10．「関心・意欲・態度」の評価、総合的な活動の評価（井口）
11	11．教授メディアの発達（安達）
12	12．ICTの授業における活用（安達）
13	13．情報化を意識した授業設計の考え方（井口）
14	14．総合課題（井口）
15	15．まとめ（井口）

評価

1 授業ごとの課題提出（30%）

2 最終試験の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る（2時間）

【事後学修】総合課題の見直し（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・『自ら学び考える教職教養』松田・星野・狩野・津吹（学文社）

・『学習者のともに取り組む授業改善』松田・星野・波多野（学文社）

科目名	教育方法B		
担当教員名	曾 貧		
ナンバリング	KBa330		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

内容

1	1. 教育の目的と方法 (ガイダンス)
2	2. 教育方法の基礎理論
3	3. 学習理論の展開
4	4. 問題解決学習の方法
5	5. 学習形態と学習指導
6	6. 教育課程の編成
7	7. 授業設計の手順と教材研究
8	8. 目標分析と評価問題の作成
9	9. 学習評価の理論
10	10. 「関心・意欲・態度」の評価、総合的な活動の評価
11	11. 教授メディアの発達
12	12. ICTの授業における活用
13	13. 情報化を意識した授業設計の考え方
14	14. 総合課題
15	15. まとめ

評価

1 授業ごとの課題提出 (30%)

2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る (2時間)

【事後学修】総合課題の見直し (1時間)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

・『自ら学び考える教職教養』松田・星野・狩野・津吹 (学文社)

・『学習者のともに取り組む授業改善』松田・星野・波多野（学文社）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング	KBa331		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼稚園教諭免許取得の必修科目である。学校教育の始まりである幼稚園教育の概要を学び、今後学修する小学校教育と一貫して見通すための基礎知識を習得する科目である。

科目の概要

幼稚園で、幼児がどのように生活し、教師はどのような指導しているか、幼稚園教育の基本的な考え方について学ぶ。特に、遊びを通した総合的な指導など、幼稚園教育の特性と小学校教育との接続について理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 幼稚園教育の特性、幼児期にふさわしい生活について理解する。
- 2 幼稚園教育要領に示されている領域の意味と関係性について理解する。
- 3 幼稚園教育と小学校教育の特性の違いと接続について理解する。

内容

1	幼稚園の一日の生活
2	幼児期にふさわしい生活、遊びを通しての総合的な指導
3	遊びや生活を通して学ぶ (3 歳児)
4	遊びや生活を通して学ぶ (4 歳児)
5	遊びや生活を通して学ぶ (5 歳児)
6	幼稚園教育要領と各領域のねらい・内容
7	領域と保育内容 (健康)
8	領域と保育内容 (人間関係)
9	領域と保育内容 (環境)
10	領域と保育内容 (言葉)
11	領域と保育内容 (表現)
12	遊びと環境の構成
13	幼稚園教育と小学校教育の接続
14	保育内容を充実させる教師の専門性
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、課題提出30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容に関連した教科書の講読。資料検索、発表準備 (1時間)

【事後学修】授業における学修のまとめ、提示する課題に関するレポート作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【推薦書】大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編「最新保育講座 保育内容総論」ミネルヴァ書房 岡上直子
・高梨珪子編「保育者論」光生館

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	宮崎 信子		
ナンバリング	KBa332		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のための必修科目。保育における「環境」の重要性を理解する。

科目の概要

乳幼児期の発達を踏まえ、保育における『環境』との豊かなかかわりを育むための、幼児の視点にたった指導内容と援助の在り方について学習する。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・ 乳幼児期の環境とのかかわりと、それに伴う諸側面の発達について理解する。
- ・ 保育実践における保育内容「環境」の在り方を理解する。

内容

1	幼児教育・保育における「環境」の概念
2	子どもの発達と環境
3	子どもと植物とのかかわり
4	子どもと生き物とのかかわり
5	子どもと自然現象とのかかわり
6	園外保育の実際
7	子どもと物とのかかわり
8	子どもと物とのかかわり
9	子どもと文字や記号とのかかわり
10	子どもと数量・図形とのかかわり
11	子どもと土・砂・水とのかかわり
12	子どもと日本の伝統文化・行事とのかかわり
13	領域「環境」と保育方法
14	領域「環境」と保育の実際
15	まとめ

評価

授業の参加度 10%、授業時の課題 60%、期末レポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領・保育所保育指針「環境」を読み、授業内容との関連について理解したうえで授業に臨む。翌授業の演習に必要なものを各自準備する。

【事後学修】授業を振り返り、理解できたことや今後に生かせる内容などをレポートし、翌週提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント配布

- 【参考図書】
- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
 - ・保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	井上 宏子		
ナンバリング	KBa333		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得のための必修科目です。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の中の領域「人間関係」の指導・援助方法について学びます。

科目の概要

保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特徴をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の援助のあり方を、具体的な事例を通して学びます。

学修目標（＝到達目標）

領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。

乳幼児期の人間関係の発達を理解する。

さまざまな場面における子どもの人間関係を知る。

人とのかかわりを援助する保育者の役割について考える。

内容

1	幼稚園教育の特徴、保育所保育指針・幼稚園教育要領における5領域
2	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い
3	乳児期の発達と人間関係
4	幼児期の発達と人間関係（幼児期前半）
5	幼児期の発達と人間関係（幼児期後半）
6	個と集団の育ち
7	遊びの中で育まれる人とかかわる力
8	人とのかかわりを育てる保育者の役割
9	子ども同士のいざこざとその援助（事例検討）
10	生活や遊びの中の人間関係（事例検討）
11	生活や遊びの中の人間関係（事例検討）
12	生活や遊びの中の人間関係（事例検討）
13	集団の中で人とかかわる力を育てる保育実践
14	人とかかわる遊びを引き出す保育環境
15	まとめ

評価

授業参加度及び態度（20%）レポート（40%）筆記試験（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前には配布されたプリントを読み、自分なりの考えをもって授業に参加する。発表する場合は、その準備をしておく。

【事後学修】事例を通して学んだときは、子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどう援助するかなどについて考えをまとめておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領

【推薦書】【参考図書】授業の中で、図書の紹介や資料の配布を行います。

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa334		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり，この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容と指導法について学修する。子どもを受容し安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かっていく態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。また，絵本の読み聞かせと「おはなし会」の計画と実施に取り組む。

学修目標

子供の言葉を育てる者として，社会における言葉や自身の言葉遣いに関心をもつ。

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。

絵本等の児童文化財について，教材研究と実践のスキルを養う。

内容	
1	ガイダンス～幼児教育の目的と領域「言葉」～
2	幼児教育の基本
3	領域「言葉」の内容の整理
4	乳幼児期の言葉の発達，「ブックスタート」の本を読む
5	絵本の読み方，選び方
6	絵本の読み聞かせの基本と「おはなし会」
7	読み聞かせの実際，「おはなし会」の計画
8	「おはなし会」の計画と練習
9	「おはなし会」の実施
10	「おはなし会」の実施
11	言葉にならない表現を受け止める
12	感情表現と言葉～内言と外言～
13	文字との出会い，「園だより」の作成
14	幼稚園・保育所・小学校の連携～「スタート・カリキュラム」について知る～
15	まとめ～乳幼児の言葉と保育者の役割～

評価

小レポート30%，実習や討論等への参加状況30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】演習を伴う内容については、事前の予習・準備が必要。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求めることがある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教育要領解説』（文部科学省，フレーベル館，205円）

【推薦書】『事例で学ぶ保育内容 領域言葉』（無藤 隆 監修，萌文書林，2,000円）

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	岡上 直子、山本 悟、井上 由利子		
ナンバリング	KBa335		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、領域「健康」に関する専門的な知識と実践的指導力を身に付けることを目的とする。

科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解する。指導法を学ぶ場として、受講者全員に模擬保育を体験させる。

学修目標（＝到達目標）

- 1 幼児期の健康、生活習慣の指導に関する知識や技能を身に付ける。
- 2 幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。
- 3 健康に関する教材を具体的に作り、活用できる。

内容

1	幼稚園教育要領の領域「健康」について	: 山本、岡上
2	幼児期の健康的な生活について	: 山本、岡上
3	子どもの心身の発育・発達とその特性	: 山本、岡上
4	保育の構想（模擬保育の展開の工夫と指導計画立案）	: 山本、岡上
5	子どもの運動遊びと基本的な生活習慣	: 岡上、井上
6	幼稚園における実際活動（1）（運動遊びと健康指導）	: 岡上、井上
7	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上、岡上
8	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上、岡上
9	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上、岡上
10	幼稚園における実際活動（2）（模擬保育の振り返り）	: 岡上、井上
11	子どもの生活リズムに関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上、岡上
12	子どもの保健に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上、岡上
13	子どもの安全に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上、岡上
14	幼稚園における実際活動（3）（模擬保育の振り返り）	: 岡上、井上
15	子どもの救急法、まとめ	: 山本、岡上

評価

模擬保育と振り返りのレポート60%、まとめのレポート20%、授業への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連した教科書の講読。模擬保育の教材準備と指導案の作成（2時間）

【事後学修】授業ノート及び配布資料の整理。振り返りレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【推薦書】杉原隆・川邊貴子「幼児期における運動発達と運動遊びの指導」ミネルヴァ書房、

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBa336		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児期における音楽教育の必要さと大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

学修目標

個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、音楽あそびにおいては保育者が自分で考案し指導できるようになることを学修目標とする。

内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

(1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3~4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2~3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方

流れるリズムの捉え方
縦乗りのリズムの捉え方

評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

- 【事前予習】課題曲3曲の楽譜を読譜し練習する。
- 【事後学修】授業内で習ったことの整理。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(キングレコード)など

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

科目の概要

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイ、疑似体験等を通して、実際の・実践的に学ぶ。

学修目標(= 到達目標)

多層指導モデルMIM、ICTの活用、視覚的構造化、SSTなど、児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容	
1	発達障害 (LD・AD/HD・ASD等) の理解
2	LDの理解
3	AD/HDの理解
4	高機能自閉症等の理解
5	アセスメントの基礎
6	心理検査法 < WISC K-ABC >
7	学力のアセスメント
8	読み・書きの指導
9	算数の指導
10	言語・コミュニケーションの指導
11	個別の指導計画の作成と実施
12	学校における支援体制：通常学級における支援
13	学校における支援体制：コーディネーターの役割
14	社会的自立・就労の問題
15	保護者との連携・地域との連携・まとめ

評価

試験による評価 (70%) 中間レポートによる評価 (20%) 平常の参加態度の評価 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 使用しません。

【推薦書】 特別支援教育の理論と実践 . . . 金剛出版

【参考図書】 「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」 社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」 社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」 社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

科目の概要

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイ、疑似体験等を通して、実際の・実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

多層指導モデルMIM、ICTの活用、視覚的構造化、SSTなど、児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容	
1	発達障害 (LD・AD/HD・ASD等) の理解
2	LDの理解
3	AD/HDの理解
4	高機能自閉症等の理解
5	アセスメントの基礎
6	心理検査法 < WISC K-ABC >
7	学力のアセスメント
8	読み・書きの指導
9	算数の指導
10	言語・コミュニケーションの指導
11	個別の指導計画の作成と実施
12	学校における支援体制：通常学級における支援
13	学校における支援体制：コーディネーターの役割
14	社会的自立・就労の問題
15	保護者との連携・地域との連携・まとめ

評価

試験による評価 (70%) 中間レポートによる評価 (20%) 平常の参加態度の評価 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 使用しません。

【推薦書】 特別支援教育の理論と実践 . . . 金剛出版

【参考図書】 「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」 社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」 社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」 社団法人 日本自閉症協会

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング	KBa439		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害の教科、教科等を合わせた指導、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成について、理解をさせる。

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について深めることを目的とする。また、知的障害児の教育課程を編成する上で重要な知的障害児の教科、教科等を合わせた指導について指導する。さらに、高等部における職業教育の在り方や進路指導、これらを支える個別の指導計画や個別の教育支援計画について、実際の特別支援学校の事例等を交えて講義を行う。

知的障害の児童生徒及び教育課程の特徴について理解し、特別支援学校教員としての基本的事項を身に付けること。

内容

第1回：知的障害教育における学習指導要領の変遷

第2回：知的障害教育の教育課程の基礎・基本

第3回：知的障害教育の教育課程 ・知的障害教育の各教科と領域、指導の形態

第4回：知的障害教育の教育課程 ・領域・教科別の指導

第5回：知的障害教育の教育課程 ・各教科等を合わせた指導(遊びの指導、日常生活の指導)

第6回：知的障害教育の教育課程 ・各教科等を合わせた指導(生活単元学習作業学習等)

第7回：障害特性に応じた教育、自閉症の教育課程

第8回：アセスメントと個別の指導計画

第9回：個に応じた指導と教材の開発・活用

第10回：指導案の書き方（指導案作成の全体的ポイント、単元計画との関係、評価規準）

第11回：指導案の書き方（児童生徒の実態と個別の目標、指導方法、教材、評価）

第12回：高等部における職業教育とインターンシップ、高等特別支援学校と教育課程の類型化

第13回：個別の教育支援計画の作成と関係機関との連携

第14回：交流及び共同学習の実際

第15回：知的障害教育の今後の展望

評価

定期試験(60%)、小テスト・レポートの提出(30%)及び授業に対する意欲・関心・態度等(10%)とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教職課程において学んだそれぞれの学校種における教育法規、教育課程、指導法等の内容を整理しておくこと。また、知的障害を中心とした特別支援教育の基本的な事項を整理しておくこと。

【事後学修】配布資料を参考に授業内容を整理し、出された課題についてまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。特別支援学校学習指導要領は必ず持参すること。特別支援教育基礎論(放送大学出版)は、参考書として推薦する。

講義は、パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

科目の概要

中学校・高校の教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について概論的に学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について学びます。

学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

内容	
1	オリエンテーション
2	これからの英語教育と教員養成
3	中学校学習指導要領について
4	高等学校学習指導要領について
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案の作成（1）
14	学習指導案の作成（2）
15	まとめ

評価

(1) 定期試験： 70%

(2) 平常点： 30% （授業参加度 復習テスト（毎週）、課題提出（毎週））

とし、総合評価60点以上を合格とする。これに加え、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】次回の範囲となるテキストの問題を解いておくこと。

【事後学修】次週の復習小テストに備えて、当該授業の振り返りを行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語英語編

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、
、
と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校・高等学校で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

学修目標 (= 到達目標)

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

内容

1	英語の基本的な抑揚
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

評価

(1) 定期試験： 70%

(2) 平常点： 30% (授業参加度 復習テスト (毎週)、課題提出 (毎週))

とし、総合評価60点以上を合格とする。これに加え、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上である

ことを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】次回の範囲となるテキストの問題を解いておくこと。

【事後学修】次週の復習小テストに備えて、当該授業の振り返りを行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】New Horison English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語英語編

科目名	生徒指導・進路指導 A		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング	KBa343		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

学修目標

- ・ 生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・ 生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・ 小学校における進路指導の在り方について考察する。

内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だて
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 子どもの気持ちをつかむ指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 学習のまとめ・進路指導の方法と指導計画
15	15. まとめ・進路相談実習

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

- 【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。
- 【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書
- 【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所
新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会
仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』 福村出版

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	岡上 直子、宮崎 信子		
ナンバリング	KBa145		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法を身に付けることを目的としている。

科目の概要

「一人一人の幼児を理解すること」の意味及び方法について、幼児の発達と関連させて理論から学ぶ。また、具体的な幼児の行動記録やビデオ記録等からの読み取りを通して、幼児を理解するための手がかりや方法について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 幼児を理解する力の基礎となる幼児の心身の発達や認知の傾向等を理解する。
- ・ 多面的な幼児理解の方法について知る。
- ・ 幼児理解の具体的な視点を学び、幼児の内面を捉える力を身に付ける。

内容

1	幼児理解の意味と重要性	: 岡上直子
2	幼児理解のための教師の姿勢	: 岡上直子
3	発達や学びの連続性	: 岡上直子
4	3歳児の遊びと生活	: 宮崎信子
5	一人一人の幼児の理解 (3歳児)	: 宮崎信子
6	4歳児の遊びと生活	: 宮崎信子
7	一人一人の幼児の理解 (4歳児)	: 宮崎信子
8	5歳児の遊びと生活	: 宮崎信子
9	一人一人の幼児の理解 (5歳児)	: 宮崎信子
10	幼児の行動記録の方法と留意点	: 岡上直子
11	記録の工夫と実際	: 岡上直子
12	記録の読み取りから深める幼児理解と評価	: 岡上直子
13	「自分」と「友達」の世界の広がり	: 岡上直子
14	集団と個の関係	: 岡上直子
15	まとめ	: 岡上直子

評価

授業への取り組み30%、課題提出30%、筆記試験の達成度40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容部分(指定箇所)の講読、課題の発見(1時間)

【事後学修】講義・協議から学んだ内容整理、課題に関するレポート作成、提出(1時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

【推薦書】岩田純一 「子どもの発達の理解から保育へ」 ミネルヴァ書房

科目名	国語		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBc256		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭一種，幼稚園教諭一種免許を取得するための必修科目である。

科目の概要

主体的な思考・判断・表現の基盤となる国語の能力の育成を目標とする。内容は，小学校学習指導要領国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に即し，具体的な表現活動を通して内容の理解を深めることをねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

国語に関心をもち，自らの考えを積極的に表現しようとする。

表現活動に取り組む中で，国語についての認識を深める。

国語に関する基礎的な知識を実践を通して身に付ける。

内容

1	ガイダンス～言葉の特徴やきまりについて考える～
2	学習指導要領の見方，文字の指導（平仮名，片仮名，ローマ字）
3	文字の指導（漢字）
4	語句，語彙に関する指導
5	ことわざ，慣用句，故事成語に関する指導
6	文字による表現の実際～新聞を作る～
7	文字による表現の実際～新聞を作る～
8	言葉遣い（敬語）に関する指導
9	伝統的な言語文化に関する指導～日本の古典，漢詩・漢文，故事成語～
10	音読，朗読，暗唱に関する指導～古典の暗唱～
11	書写の指導～平仮名の基本～
12	言葉のきまりの指導～主語・述語，修飾語・被修飾語～
13	本，読書に関する基礎知識と指導～持参した本を紹介する～
14	絵本の基礎知識～絵本の価値と読み聞かせ～
15	まとめ～[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の役割を振り返る～

評価

小レポート30%，演習等への参加状況や成果物30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】講義の中で紹介する。

【参考図書】講義の中で紹介する。

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均、増田 吉史		
ナンバリング	KBc257		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、次の「初等算数科教育」の基礎とする。

科目の概要

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通した数や量の形概念獲得を知る。算数科の学びの基本と関連付けながら、小学校1年生から6年生までの内容や方法を「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

学修目標 (= 到達目標)

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、数学的思考や問題解決学習を体感する。なお習熟度(学生の意志)により2クラスを設定し、少人数指導を取り入れる。ただし目標と到達目標、評価の基準は一つである。

内容	
1	ガイダンス。小学校就学前後の幼児児童と算数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
2	幼児児童の数感覚、数えること、1対1対応。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
3	幼児児童の数感覚、十進位取り記数法。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
4	幼児児童の数と集合。数の相対的な大きさ。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
5	幼児児童のものと数詞の対応、数の表し方。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
6	幼児児童の遊びの中での算数。数直線。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
7	幼児児童の数の大小と順序数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
8	小学校算数の加法・減法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
9	小学校算数の整数・小数・分数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
10	小学校算数の乗法・除法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
11	小学校算数の量と測定。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
12	小学校算数の図形。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
13	小学校算数の数量関係。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
14	小学校算数の算数的活動。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教師としての数学的思考力・問題解決力育成の小テストを自力で実行し、みんなでの練り上げ前に自分の解決をまとめる。

【事後学修】小テストで他者の考えに触れ、比較し、自分の解決を振り返える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均、増田 吉史		
ナンバリング	KBc257		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、次の「初等算数科教育」の基礎とする。

科目の概要

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通した数や量の形概念獲得を知る。算数科の学びの基本と関連付けながら、小学校1年生から6年生までの内容や方法を「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

学修目標 (= 到達目標)

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、数学的思考や問題解決学習を体感する。なお習熟度(学生の意志)により2クラスを設定し、少人数指導を取り入れる。ただし目標と到達目標、評価の基準は一つである。

内容

1	ガイダンス。小学校就学前後の幼児児童と算数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
2	幼児児童の数感覚、数えること、1対1対応。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
3	幼児児童の数感覚、十進位取り記数法。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
4	幼児児童の数と集合。数の相対的な大きさ。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
5	幼児児童のものと数詞の対応、数の表し方。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
6	幼児児童の遊びの中での算数。数直線。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
7	幼児児童の数の大小と順序数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
8	小学校算数の加法・減法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
9	小学校算数の整数・小数・分数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
10	小学校算数の乗法・除法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
11	小学校算数の量と測定。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
12	小学校算数の図形。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
13	小学校算数の数量関係。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
14	小学校算数の算数的活動。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教師としての数学的思考力・問題解決力育成の小テストを自力で実行し、みんなでの練り上げ前に自分の解決をまとめる。

【事後学修】小テストで他者の考えに触れ、比較し、自分の解決を振り返える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	Kbc258		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

芸術の中の音楽を中心に学び、この芸術が人間にとってどのように影響を与えるかを考察することがこの本講義のねらいである。

科目の概要

音を楽しむことを知り、音楽の役割を広い意味で捉えられるようにする。クラシック音楽から身の回りにある音楽まであらゆるジャンルの音楽 (例えば幼児期に聞いたことのある童謡やテレビの主題歌、学校教育の中で学んだ音楽、自分が興味を持って好んで聴く音楽など) を取り上げて、自分の中の音楽文化がどのように育ったかを認識する。そして音楽を通しての情操教育の大切さを確認し、これから自分と音楽とがどのようにして関わっていくかを考える。また音楽の基礎知識も学ぶ。

学修目標

芸術としての音楽のとらえ方、日常生活に上手にとり入れていく方法、音楽と心の関係、現代社会におけるストレス解消など、生涯学習としての音楽の役割も考察することを目標とする。

内容

主に、毎回10分ぐらい音楽の基礎知識の講義を行い、その後下記の講義を行う。

1	オリエンテーション 自分を取りまく音楽について
2	映像と音楽の関係 1
3	映像と音楽の関係 2
4	日本の教科書の音楽と子どもの歌の歴史
5	世界の子どもの歌について
6	合わせる音楽 1 (コーラス)
7	合わせる音楽 2 (アンサンブル)
8	クラシック音楽について (背景文化との比較)
9	楽器について
10	オーケストラと指揮者について
11	ミュージカル音楽 1 (オペラからの歴史)
12	ミュージカル音楽 2 (場面と音楽の関係)
13	作曲について
14	編曲者について
15	まとめ

評価

毎回ごとの課題レポート (70%)、通常の授業態度 (30%) と、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】次の授業で扱う音楽の視聴

【事後学修】授業ノートおよび配布資料の整理

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、テキスト・プリントCDを使用し、授業で紹介していく。

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して図画工作の楽しさや喜びを味わい、図画工作に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
7	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
8	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ：フィンガーペインティング
9	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
10	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
11	粘土を使った表現について学ぶ
12	粘土を使った表現について学ぶ
13	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
14	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

【事後学修】資料等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して図画工作の楽しさや喜びを味わい、図画工作に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
7	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
8	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ：フィンガーペインティング
9	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
10	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
11	粘土を使った表現について学ぶ
12	粘土を使った表現について学ぶ
13	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
14	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

【事後学修】資料等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBc260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）	: 山本
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
4	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）	: 山本
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
6	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
7	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
8	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
9	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
10	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）	: 山本
11	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
12	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
15	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）	: 佐藤

評価

授業への参加度（運動への取組、協働性）60%、模擬授業の発表およびレポート40%として、総合評価60点以上

を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備とレジュメ作成（学習指導案）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBc260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容			
1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践		: 山本、佐藤
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）		: 佐藤
3	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）		: 佐藤
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）		: 佐藤
5	表現運動（創作活動と発表会）		: 佐藤
6	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走：跳び方のコツを探る）		: 山本
7	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走：チーム対抗の競走）		: 山本
8	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）		: 山本
9	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）		: 山本
10	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）		: 佐藤
11	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）		: 佐藤
12	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）		: 佐藤
13	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）		: 山本
14	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）		: 山本
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）		: 山本

評価

授業への参加度（運動への取組、協働性）60%、模擬授業の発表およびレポート40%として、総合評価60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備とレジュメ作成（学習指導案）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」不昧堂出版

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング	KBc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 社会科の目標と主な内容
- 2 小学校社会科の変遷
- 3 学習指導要領 社会のポイント
- 4 中学年社会科の学習内容 3 学年
- 5 中学年社会科の学習内容 4 学年
- 6 高学年社会科の学習内容 5 学年
- 7 高学年社会科の学習内容 6 学年
- 8 社会科学習における地理的内容
- 9 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 10 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 11 社会科学習における歴史的内容
- 12 社会科学習における公民的内容
- 13 社会科学習の事例（1）
- 14 社会科学習の事例（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物 60 点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等） 40 点、とし

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング	KBc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 社会科の目標と主な内容
- 2 小学校社会科の変遷
- 3 学習指導要領 社会のポイント
- 4 中学年社会科の学習内容 3 学年
- 5 中学年社会科の学習内容 4 学年
- 6 高学年社会科の学習内容 5 学年
- 7 高学年社会科の学習内容 6 学年
- 8 社会科学習における地理的内容
- 9 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 10 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 11 社会科学習における歴史的内容
- 12 社会科学習における公民的内容
- 13 社会科学習の事例（1）
- 14 社会科学習の事例（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物 60 点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40 点、とし

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	生活		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBC262		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校生活科は幼児期の教育と極めて密接な関係をもっている。幼児期は「遊びの生活」と言われるように遊びの中で様々なことを体験を通して学んでいる。幼児期の遊びの発達段階を理解しつつ遊びの中ではぐくまれていくちからにも視点をあて、指導者の役割を理解する。

科目の概要

幼児期における遊びの価値や発達段階を学んだり、実際の遊び体験をもとに表現活動を工夫し多様な学びの存在を理解する。小学校の生活科の誕生の背景や生活科の授業の様子を資料や映像をもとに学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

幼児期における遊びの価値について理解し、質の高い遊びのイメージを描けたり、遊び具体的に計画したり、指導者としてかかわったりプランを作成することができる。

・幼稚園教育要領と小学校学習指導要領（生活編）との比較を通して、生活科の目標および内容が幼児教育と密接な関わりのあることを理解するとともに、幼保小の連携の現状や望ましい連携の在り方について考えることができる。

内容

1	オリエンテーション 幼児期における遊び
2	子どもを主体として育てる指導者のかかわり
3	個と集団
4	子どもの遊びの発達
5	体験の価値
6	遊びが育てる力 活動分析
7	遊びが育てる力 考察
8	学びの芽生え 身近な素材で遊ぶ
9	学びの芽生え 体験の表現
10	表現による交流
11	子どもの空間認識
12	幼児期の心象風景
13	私の「心象風景」を伝え合う
14	生活科の授業の実際 指導者の役割
15	小学校へのアプローチ・カリキュラム

評価

毎回の授業レポート（30％） 授業での課題レポート、課題作品（40％） 授業への参加度（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回で扱う項目について、テキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に臨むこと

【事後学修】授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深める努力をすること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省 日本文教出版

科目名	理科		
担当教員名	宮川 保之、岩田 泉		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目のうち、教科に関する科目「理科」(選択科目)であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」(「必修」)の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。よって、本科目を履修することが望ましい。

科目の概要

「理科」は、様々な事象を「科学的に観ることや、科学的に考える」ことを通して、思考力や表現力等を身に付けることを目指している。この「理科」の目標である「科学的な見方考え方」が出来る子供を育てるために、理科を学ぶとはどのようなことかを 観察や実験を通して体験的に学ぶ内容とし、教養ある人として生きる力を身に付ける。

特に、本授業では、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにし、学んで楽しい内容である。

学修目標 (= 到達目標)

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成、模擬授業を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにする。

1	ガイダンス	理科教育の目的	科学する心を育てるといったことはどのようなことか
2	観察・実験の方法	秋の植物の継続的な観察と記録	生物と無生物 自然と科学
3	生物の構造と機能	植物や動物(人体のつくりと働き)の生命維持	
4	生物の多様性と共通性	植物・動物の成長と運動	
5	生命の連続性と環境との関わり	植物の発芽成長(継続観察)	
6	秋の植物観察の結果の発表		
7	実験	ア、粒子の存在	イ、空気・水の性質
8	実験	ア、粒子の結合	イ、燃焼の仕組み
9	実験	ア、粒子の保存	イ、物の重さ・物の溶け方、水溶液の性質
10	実験	ア、エネルギー	イ、風邪やゴムの働き、光の性質
11	実験	ア、磁石の性質	イ、振り子の運動 ウ、てこの働き
12	実験	ア、エネルギーの変換と保存	イ、電気の性質と働き ウ、電気の利用
13	実験	ア、地球の成り立ち	イ、持続可能な開発(ESD)と環境問題
14	理科学習指導案の作成と理科授業の構想 理科を学ぶことのよさをどのように伝えるか		
15	まとめ	理科好きの子供を育てる授業と実践に向けて	試験(30分)

評価

実験毎のワークシート30%，観察・実験のレポート等40%，筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】反転学習の授業形態とする。継続的な観察などを行い、記録をする。

【事後学修】学習したことをもとに、授業や観察・実験等の構想を練り、ノートを作る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】日置光久他編著『シリーズ日本型理科教育 1～5』東洋館出版社刊

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

科目名	理科		
担当教員名	宮川 保之、岩田 泉		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目のうち、教科に関する科目「理科」(選択科目)であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」(「必修」)の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。よって、本科目を履修することが望ましい。

科目の概要

「理科」は、様々な事象を「科学的に観ることや、科学的に考える」ことを通して、思考力や表現力等を身に付けることを目指している。この「理科」の目標である「科学的な見方考え方」が出来る子供を育てるために、理科を学ぶとはどのようなことかを 観察や実験を通して体験的に学ぶ内容とし、教養ある人として生きる力を身に付ける。

特に、本授業では、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにし、学んで楽しい内容である。

学修目標 (= 到達目標)

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成、模擬授業を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにする。

1	ガイダンス	理科教育の目的	科学する心を育てるといったことはどのようなことか
2	観察・実験の方法	秋の植物の継続的な観察と記録	生物と無生物 自然と科学
3	生物の構造と機能	植物や動物(人体のつくりと働き)の生命維持	
4	生物の多様性と共通性	植物・動物の成長と運動	
5	生命の連続性と環境との関わり	植物の発芽成長(継続観察)	
6	秋の植物観察の結果の発表		
7	実験	ア、粒子の存在	イ、空気・水の性質
8	実験	ア、粒子の結合	イ、燃焼の仕組み
9	実験	ア、粒子の保存	イ、物の重さ・物の溶け方、水溶液の性質
10	実験	ア、エネルギー	イ、風邪やゴムの働き、光の性質
11	実験	ア、磁石の性質	イ、振り子の運動 ウ、てこの働き
12	実験	ア、エネルギーの変換と保存	イ、電気の性質と働き ウ、電気の利用
13	実験	ア、地球の成り立ち	イ、持続可能な開発(ESD)と環境問題
14	理科学習指導案の作成と理科授業の構想 理科を学ぶことのよさをどのように伝えるか		
15	まとめ	理科好きの子供を育てる授業と実践に向けて	試験(30分)

評価

実験毎のワークシート30%，観察・実験のレポート等40%，筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】反転学習の授業形態とする。継続的な観察などを行い、記録する。

【事後学修】学習したことをもとに、授業や観察・実験等の構想を練り、ノートをつくる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】日置光久他編著『シリーズ日本型理科教育 1～5』東洋館出版社刊

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

科目名	家庭		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング	KBc264		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭免許状を取得するための科目である。

科目の概要

小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目標としている。そこで、この授業では、今日の家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解するとともに学習内容に対する知識の習得を図る。さらに、授業展開に活かすことのできる題材構成や教材選びの視点、学習指導の要点や留意点を学習していく。また、家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活に関する基本事項について解説するとともに簡単な演習・実習を行い、小学校家庭科が生活を総合的に捉えていることや生活を主体的に創る態度を目指していることに理解を深めていく。

学修目標 (= 到達目標)

1. 「家庭生活と家族」、「日常の食事と調理の基礎」、「快適な衣服と住まい」、「身近な消費生活と環境」に関する知識と技能を身に付ける。
2. 生活をよりよくしようとする実践的な態度とはどのようなものかを理解し、説明できる。
3. 教育課程の特徴を理解したうえで小学校家庭科の特質と役割を理解し、説明できる。

内容

1	家庭科の学習内容・学習目的・小学校において進められている教育理念の確認
2	家庭科の目標・家庭科の内容構成
3	家庭科の内容
4	指導計画の作成と内容の取扱い
5	A「家庭生活と家族」の学習展開・要点
6	B「日常の食事と調理の基礎」の学習展開
7	B「日常の食事と調理の基礎」の要点
8	実習の指導・米飯とみそ汁の調理
9	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について
10	C「快適な衣服と住まい」の学習展開
11	C「快適な衣服と住まい」の要点
12	手縫いの技能
13	D「身近な消費生活と環境」の学習展開
14	D「身近な消費生活と環境」の要点
15	家族・家庭生活・地域とのかかわりを活かす工夫, まとめ

評価

- ・授業への積極的参加（レスポンスシートの記述を含む） 30%
- ・レポート（知識・理解・論述・表現） 30%
- ・演習・実技作品 40%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】

- ・教科書のうち、次時の内容にあたる箇所を読む。次時に必要な学習用具をそろえる。

【事後学修】

- ・学習内容をふり返り、理解を深める。実生活の中で技能を高める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2008

- ・『新編 新しい家庭5・6』東京書籍、2015

【参考図書】・内野紀子『小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編』教育出版、2008

- ・金子佳代子・藤原孝子『平成20年版小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり家庭』東洋館出版、2008
- ・田中孝一『新評価規準を生かす授業づくり小学校編第4巻家庭科・体育科・特別活動』ぎょうせい、2011

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	岩井 雄一、齋藤 忍、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc266		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

特別支援教育の中の知的障害の心理・生理・病理について基礎的な知識を学びます。講義では知的障害の発生要因・定義・分類・評価法・診断・病理等について事例を取り上げながら理解を深めます。学修目標は 知的障害の基礎を理解することができること 知的障害児の教育的ニーズと支援方法を理解することができることです。

内容

- 第1回：知的障害の病理 知的障害の定義（奈倉）
- 第2回：知的障害の病理 知的障害の原因となる身体疾患（奈倉）
- 第3回：知的障害の病理 自閉症スペクトラム障害（奈倉）
- 第4回：知的障害の病理 学習障害・注意欠陥多動障害（奈倉）
- 第5回：知的障害の病理 まとめ（奈倉）
- 第6回：知的障害と認知特性（齋藤）
- 第7回：知的障害の心理的特性（齋藤）
- 第8回：知的障害のアセスメント（齋藤）
- 第9回：知的障害と記憶・学習（齋藤）
- 第10回：知的障害の早期発見と療育（齋藤）
- 第11回：知的障害の定義（岩井）
- 第12回：知的障害とソーシャルスキル（岩井）
- 第13回：知的障害に関連する諸障害の特性（岩井）
- 第14回：知的障害の学校における支援体制、関係諸機関との連携（岩井）
- 第15回：知的障害における地域との連携（岩井）

本授業における「知的障害」には、いずれも（肢体不自由・病弱）を含めて講義する。

知的障害の病理 ～ （奈倉先生担当）は集中講義で行う。

評価

試験による評価70% 中間レポートによる評価 20% 平常の参加度の評価 10%です。 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施します。

授業外学習

- 【事前予習】知的障害の定義・診断・分類を調べておくこと。
- 【事後学修】知的障害児の教育的ニーズと支援方法をまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本 ジアース教育新社

吉田昌義 鳥居深雪 著 特別支援教育基礎論 放送大学教育振興会 NHK出版

下司昌一編集「現場で役立つ特別支援教育ハンドブック」日本文化社

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	吉川 知夫、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc267		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：肢体不自由児はその起因疾患や病態、心理的な発達特性に関してきわめて多様で個人差がある。個に応じた指導を展開するには、肢体不自由児の障害や発達実態について医学、心理学等多角的な視点から把握する必要がある。本授業では、肢体不自由教育に携わる際に必要となる基礎知識を習得することを目的として、肢体不自由の起因疾患と病態について概説する。また、運動発達や認知発達、社会性、コミュニケーション発達を中心に肢体不自由が子どもの発達に及ぼす影響について概説し、教育実践上の問題を具体的に検討する。

学修目標：1．主要な肢体不自由の起因疾患と病態について理解すること、2．肢体不自由児の発達について多面的に理解すること、3．社会的視点から関係領域と連携した発達支援を理解することの3点である。

内容

1	肢体不自由の起因疾患と病態の特徴及び脳性まひ等の脳障害にみられる随伴障害（担当；吉川）
2	肢体不自由児の心理的特性の理解1（担当；吉川）
3	肢体不自由児の心理的特性の理解2（担当；吉川）
4	肢体不自由児の保護者の心理理解とその対応（担当；吉川）
5	肢体不自由と運動発達（担当；吉川）
6	肢体不自由と認知発達（担当；吉川）
7	肢体不自由と社会性の発達（担当；吉川）
8	肢体不自由と言語・コミュニケーションの発達（担当；吉川）
9	肢体不自由者の障害受容のプロセス1（途中障害と先天性障害）（担当；吉川）
10	肢体不自由者の障害受容のプロセス2（途中障害と先天性障害）（担当；吉川）
11	肢体不自由の病理（脳性麻痺）（担当；奈倉）
12	肢体不自由の病理（末梢神経・筋疾患）（担当；奈倉）
13	肢体不自由の病理（筋ジストロフィー）（担当；奈倉）
14	肢体不自由の病理（医療的ケア）（担当；奈倉）
15	肢体不自由の病理（まとめ）（担当；奈倉）

評価

学修目標に関するレポート（30点）、筆記試験（30点）、毎回のリアクションペーパー（20点）、通常の受講時の態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】関連する文献等を読んでおくこと。

【事後学修】授業時に出題する課題について調べ、理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で紹介する。毎回授業時に関係資料を配付する。

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	坂田 紀行、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc268		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は特別支援学校教諭免許状取得のために必要な科目である。

科目の概要

授業は講義形式により、心理・生理・病理について理解を深め、病弱児の子どもたちの学習や生活の場面を映像で視聴したり講義で心理的な対応のあり方を学ぶ。機会を作って特別支援学校（病弱校）も見学する。

学修目標（＝到達目標）

- 1 病弱児の学んでいる学校の学校（全国レベル）をつかむ。
- 2 病弱児の認知、言語、社会性、知能などの基本的な特徴、実態について理解する。
- 3 病弱児の心理的特徴について理解する。
- 4 病弱児の心理的特徴を病弱教育の中の全体活動と自立的活動の中でどのように活かすかについて習得する
- 5 病弱児の主な疾患と実態を理解する

内容

1	病弱児の実態の把握 1（全国の病弱校の実態、認知、言語の実態）（担当；坂田）
2	病弱児の心理的内容の把握 2（認知、言語、心理的不安、対人関係）（担当；坂田）
3	病弱児の病院隣接の入院生活とその様子の理解（担当；坂田）
4	病弱児の疾患と心理的不安に対する学校、家庭の支援（担当；坂田）
5	病弱児の支援（医療関係者の理解と指導）の理解（担当；坂田）
6	病弱児の支援（教育関係者の理解と指導）の理解（担当；坂田）
7	病弱児の支援（疾患の特徴と生活環境の工夫、家庭の対応）（担当；坂田）
8	病弱児の主な疾患とその分類（担当；坂田）
9	病弱児の心理的対応と自立活動の連携（担当；坂田）
10	病弱児の指導（心理、疾患、指導差者の姿勢等）（担当；坂田）
11	病弱の病理（てんかん）（担当；奈倉）
12	病弱の病理 に（心疾患、腎疾患）（担当；奈倉）
13	病弱の病理（内部疾患、免疫アレルギー疾患）（担当；奈倉）
14	病弱の病理（不登校関連疾患）（担当；奈倉）
15	病弱の病理（まとめ）（担当；奈倉）

評価

学修目標に関するレポート（40点）学修目標に関するペーパー-テスト（40点）、受講時への態度（20点）を加味して

、総合的に評価をする。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】新聞、TV等で病弱関係の情報があったら掴んでメモしておく。

【事後学修】授業で配布された資料を各回ごとにファイルして整理・保存する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】病気の子どものガイドブック：全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

ファイリア：全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

特別支援教育基礎論：大南英明、緒方明子、吉田昌義 放送大学教育振興会発行

【参考図書】適宜、資料を教室で配布します。また、BDビデオ、PW等視聴覚教材を取り入れる。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング	KBd368		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書教諭課程は「学校図書館」そのものについて学ぶ科目と、司書教諭として児童生徒に対する「指導法」を学ぶ科目に大別できる。本講は児童生徒の「メディア活用能力育成のための指導」の具体的な方法を学ぶ科目である。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭 5 科目のうち最も中核的な科目である。

科目の概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的に・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。

学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用の方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索 (図書館での演習)
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定 (発表・討議)
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化 (グループ討議)
9	指導内容の体系化 (討議結果の発表)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の 1 単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

授業外学習

【事前予習】毎回、授業に関する課題を指示する。次回までに、図書館を使って調査実習しまとめておくこと。授業時に発表および提出してもらう。

【事後学修】毎回、その日の授業のまとめ、考えを記すフィードバックシートの配布、または授業に関する課題を指示する。次回までに取り組み提出してもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）とし、総合して評価します。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）とし、総

合して評価します。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd369		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

表現活動概論（3年後期）の受講生または表現活動既修者の4年生が皆さんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合して評価します。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	日出間 均、清水 玲子、富山 哲也		
ナンバリング	KBd170		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員の職務や担任教師の動きを「学校教育計画」をもとに理解するとともに、学校現場でその実際を知る。

科目の概要

大学に入学したばかりの1年生に、小学校教員の職務の基礎的な事項を、できるだけ実感できるように演習的に進行する。学校現場における学校行事や学校安全の取り組みが、計画的に、組織的に実施されていることを学校現場の実践をもとに具体的に理解していく。

学修目標（＝到達目標）

計画書を作成したり、学校現場に学んだりすることにより、小学校教員の職務を理解し、自分の適性についての判断材料や判断基準を得る。

内容

- 学校の1年を、学校教育計画をもとに理解する。
- 担任教師の1年の実際の取り組みを、学校現場の調査・観察をもとに体験的に学びを進める。
- 学校現場における学校行事や学校安全の取り組みの調査・観察をもとに模擬指導を体験する。

オリエンテーション

学校の目的、学校の1年間、教師の1年間	富山 清水 日出間
学校行事・学校安全の目標と内容	日出間
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 1（例：清掃などの当番活動）	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 2（例：給食の時間の指導）	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 3（例：始業式・終業式）	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 4（例：学校図書館の利用）	富山
運動会の意義、計画立案	日出間
ダンス（表現）指導の実際・計画 ～低・中学年向け～	清水・日出間
ダンス（表現）指導の実際・計画 ～高学年向け～	清水・日出間
ダンス（表現）指導の実際・指導 ～低・中学年向け～	清水・日出間
ダンス（表現）指導の実際・指導 ～高学年向け～	清水・日出間
ダンス（表現）指導の実際・発表と協議 ～低・中学年向け～	清水・日出間
ダンス（表現）指導の実際・発表と協議 ～高学年～	清水・日出間
まとめ	日出間

評価

毎時間の学修票の作成（30点）、計画書・報告書の作成やプレゼン発表の実施（40点）、まとめのレポートの作成（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容の前提となる事項を確認し、関連する資料に目を通し、計画力を養う。

【事後学修】インターンシップを実際に体験し、自己評価をし、まとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説(総則編), 小学校学習指導要領解説(特別活動編)

【推薦書】「小学校キャリア教育の手引き」（教育出版）

【参考図書】授業時に指示する。

科目名	教職発展演習		
担当教員名	山本 悟、吉川 知夫、齋藤 忍、狩野 浩二 他		
ナンバリング	KBd370		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深める。体験活動については、集団宿泊行事の模擬指導を通して、学校教育における実践的な資質、能力、知識、方法論を理解する。

科目の概要

講義を受けるとともに、主体的に事例を調べ発表し合う中で小学校教育に関する理解を深め表現力を高める。前期を集中授業の扱いとして、集団宿泊行事における体験活動を実施して体験学習の進め方や配慮事項を学ぶ (夏期休暇中に2泊3日で実施)。後期は教職に関する現実的な課題を中心に学習指導や子どもとの接し方などについて、学校ボランティア活動 (インターンシップ) の実践をもとに理解を深める。さらに、すぐれた教育実践資料および学校現場の教育問題を題材に学びを深めて教職に関する資質・素地を養う。

学修目標 (= 到達目標)

次の3点を授業のめあてとする。

- ・ 宿泊を伴う校外学習の進め方、配慮事項を体験的に学び、基礎基本を修得する。
- ・ 学習活動や子どもとの接し方に関する諸問題に関心を持ち、その現状を調べて教職に関する自分なりの考えを整理する。
- ・ バスセッション等を用いた討論の進め方を身につけ、自分の意見を発表できるようになる。

内容

前 期

- 1 回目 オリエンテーション。年間活動計画と自然体験活動の内容確認。
 学校インターンシップ活動のガイダンス説明 (1 ~ 3 年生合同) : 担当者全員
- 2 回目 集団宿泊的行事の位置づけ、指導方法、生活指導、安全管理等を調べる。 : 山本
- 3 回目 集団宿泊的行事の進め方の確認、班編成 : 山本
- 4 ~ 6 回目 集団宿泊的行事の計画書作成 : 山本
- 7 回目 集団宿泊的行事の事前指導 (しおりをもとに発表活動) : 山本
- 8 ~ 15 回目 : 担当者全員

現地 (群馬県) での体験活動と模擬指導 (9月4日 ~ 6日 : 2泊3日で実施予定)

- ・ 宿泊を伴う行事の運営と安全管理、生活指導と健康管理
- ・ 体験活動 : 登山、ハイキング、野外炊事、キャンプファイヤー等
- ・ 移動時 (交通機関を含む) における安全管理

後 期

- 1 ~ 2 回目 集団宿泊的行事の実践報告とまとめ : 担当者全員
- 3 回目 学校インターンシップ活動の中間報告会 (1 ~ 3 年生合同) : 担当者全員
- 4 ~ 14 回目

学習指導要領および学校インターンシップ活動の実践より課題を設定し、バスセッション

等による意見交換を通して教職に関わる基本的な知識や技能の理解を深める。

- ・学校インターンシップ活動の振り返りと発表活動 : 吉川、狩野、山本(4~6回)
- ・すぐれた教育実践から学ぶ(授業づくりの素地を深める): 狩野、日出間(7~10回)
- ・最新教育問題を考える : 日出間、吉川(11~14回)

15回目 まとめ(学校ボランティア活動の最終報告会:1~3年生合同) : 担当者全員

評価

前期の集団宿泊行事に関する事前活動(計画書、指導案作成)やその実践的体験活動(模擬指導)および発表活動を50点、後期の発表活動とレポート等作成を50点として総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。集団宿泊的行事の計画書作成、各プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業内容を整理するレポート作成。授業で紹介した推薦書、参考図書の自主的講読。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省「小学校学習指導要領」(平成20年度版)

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」(平成20年度版)

【推薦書】【参考図書】授業の中で適宜、紹介する。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング	KBd471		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者達に適切に対応できる力を育成する。

内容

1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。教育実習について
2	学級教育目標設定の手順の例。教育実習生として心掛けること、気をつけること
3	学級経営案の作成 (学級目標、学級経営方針、学級の実態把握)
4	学級経営の計画 (教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導)
5	学級経営の計画 (生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携)
6	学級経営の計画 (学級事務の処理、学級経営の評価、参加したくなる授業参観・懇談会)
7	各種表簿、観察を通じて、児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向、得意教科や不得意教科、つまずきなど実態の把握方法
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動のよりよい環境構成
10	学習評価、諸表簿作成などの事務処理の実際
11	学級経営に関する保護者への通知、学級通信や懇談会等での連携の方法
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ (ささまざまな問題への対処の仕方)
14	家庭および地域の様子の把握
15	まとめ

評価

提出物 (20%)、小テスト (30%)、試験 (30%)、学習態度・積極性・発言等 (20%) によって総合的に評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指定した教科書を事前に読んでおくこと。

【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

著者名 小城 まさえ

書名 クラスづくり12か月

出版社名 学研

【推薦書】

なし

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 真理子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	書写・文章表現演習（基礎）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBd278		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための基礎と、文章を書くための基礎を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し、文字指導に必要な用具（硬筆を中心とする）の扱いや運筆、文字についての知識等を学ぶ（実技を含む）。また、チョークによる板書や「学級だより」の作成など、教師の書く文字についてもそのポイントを学習する。文章表現では、話し言葉と書き言葉の違い、分かりやすい表現など、文章を書くための基礎を身に付けるほか、問いに正対して書くなど、小論文を書く基本を学習する。

学修目標（＝到達目標）

文字表現に関心をもち、進んで文字や文章を書こうとする。

文字指導を行うための基本的な知識を身に付け、板書やプリント作成に生かす。

文章を書くための基礎を身に付け、小論文を書く。

内容

1	ガイダンス，文章表現 ～話し言葉と書き言葉～
2	文章表現 ～分かりやすい文章を書く～
3	文章表現 ～実用的な文章を書く～
4	文章表現 ～問いに正対した文章を書く～
5	書写 ～文字指導の概要，学習指導要領の理解，姿勢や筆記具の持ち方，平仮名1～
6	書写 ～平仮名2～
7	書写 ～平仮名3，板書の基本・チョークの持ち方～
8	書写 ～片仮名～
9	書写 ～学習指導要領「書写」の内容，漢字1：点画の種類と筆順～
10	書写 ～漢字2：文字の組み立て～
11	書写 ～漢字3：文字の大きさや配列～
12	書写 ～「学級だより」を書く～
13	書写 ～読みやすい板書を考える～
14	書写 ～書写指導の教材を作る～
15	まとめと振り返り，文章表現の工夫，文字指導について考える～

評価

演習等への参加状況30%，作成物の状況30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の学修においては、Bまたは2Bの鉛筆を準備すること。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、小口 かおり、高橋 英明		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことを通して，あいまいな表現を直し，精度の高い文章を書くことを学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。

毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。

精度の高い，論理的な文章を書く。

内容	
1	ガイダンス，文章表現 ～課題の設定～（富山）
2	文章表現 ～情報の収集と引用～（富山）
3	文章表現 ～文章の構成～（富山）
4	文章表現 ～あいまいな表現～（富山）
5	文章表現 ～論的な文章を書く～（富山）
6	書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（高橋）
7	書写 ～点画の書き方，画の組み立て方～（高橋）
8	書写 ～文字の組み立て方～（高橋）
9	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（高橋）
10	書写 ～名前の書き方，ここまでの学習のまとめ～（高橋）
11	書写 ～点画の書き方の習熟～（小口）
12	書写 ～用具・用材とその扱い方～（小口）
13	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（小口）
14	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（小口）
15	書写 ～ポスター・案内状等の書き方，ここまでの学習のまとめ～（小口）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、小口 かおり、高橋 英明		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことを通して，あいまいな表現を直し，精度の高い文章を書くことを学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。

毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。

精度の高い，論理的な文章を書く。

内容	
1	ガイダンス，書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（高橋）
2	書写 ～点画の書き方，画の組み立て方～（高橋）
3	書写 ～文字の組み立て方～（高橋）
4	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（高橋）
5	書写 ～名前の書き方，ここまでの学習のまとめ～（高橋）
6	文章表現 ～課題の設定～（小口）
7	文章表現 ～情報の収集と引用～（小口）
8	文章表現 ～文章の構成～（小口）
9	文章表現 ～あいまいな表現～（小口）
10	文章表現 ～論的な文章を書く～（小口）
11	書写 ～点画の書き方の習熟～（富山）
12	書写 ～用具・用材とその扱い方～（富山）
13	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（富山）
14	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（富山）
15	書写 ～ポスター・案内状等の書き方，ここまでの学習のまとめ～（富山）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、小口 かおり、高橋 英明		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことを通して，あいまいな表現を直し，精度の高い文章を書くことを学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。

毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。

精度の高い，論理的な文章を書く。

内容	
1	ガイダンス，書写 ～点画の書き方，画の組み立て方～（小口）
2	書写 ～用具・用材とその扱い方～（小口）
3	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（小口）
4	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（小口）
5	書写 ～ポスター・案内状等の書き方，ここまでの学習のまとめ～（小口）
6	文章表現 ～課題の設定～（富山）
7	文章表現 ～情報の収集と引用～（富山）
8	文章表現 ～文章の構成～（富山）
9	文章表現 ～あいまいな表現～（富山）
10	文章表現 ～論的な文章を書く～（富山）
11	書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（高橋）
12	書写 ～点画の書き方の習熟～（高橋）
13	書写 ～文字の組み立て方～（高橋）
14	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（高橋）
15	書写 ～名前の書き方，ここまでの学習のまとめ～（高橋）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe379		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得 (英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得 (英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得 (形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

期末試験70%、小テスト (毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います) 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe380		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則 (偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則 (少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則 (規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学（子音と母音）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

他学科に開放されている、児童教育学科の英語学に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「ことばのしくみ」・「英語学」・「英語音声学II」とあわせ4科目すべてを履修すること。なお、「英語音声学II」では、この科目よりも時間の長い発音（音連続・リズム・イントネーション）に注目して応用練習をします。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方にも履修をお勧めします。

母語の個々の音（母音・子音・半母音）の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語の発音を日本語と比較することにより個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

第4, 5章の子音（しいん）と母音（ぼいん）をていねいに練習していきます。後半の音の連続・アクセント・リズム・イントネーションの部分も重要ですが、要点を押さえて速く進みます。

1	1. 現代英語の標準発音 -- 2. つづり字と発音
2	3. 音素
3	4. 子音 閉鎖音
4	4. 子音 摩擦音
5	4. 子音 破擦音・鼻音・促音
6	4. 子音 半母音
7	5. 母音 短母音
8	5. 母音 長母音
9	5. 母音 二重母音
10	5. 母音 弱母音と半弱母音
11	6. 音の連続
12	7. アクセント
13	8. リズム
14	9 .イントネーション
15	【まとめ】

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書付属CD音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで何度も発音練習して、映画やネット上の英語音声に親しんでください。人によりますが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	英語音声学（発話実践）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

他学科に開放されている、児童教育学科の英語学に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「ことばのしくみ」・「英語学」・「英語音声学I」とあわせ4科目すべてを履修すること。なお、「英語音声学I」では、この科目よりも時間の短い個々の音（母音・子音・半母音）を詳しくみます。

英語の自然なリズム・イントネーションは、子供か勘のいい人しか身につかないのでしょうか？ この科目では、英語音声学 の教科書の最後の3章でリズム・イントネーションを復習し、さまざまな音声を朗読練習していきます。紹介する音声を何度も朗読して、英語音声に親しみましょう。

英語らしい流暢な発音の修得を狙います。

内容

この授業の教科書は、前期科目の英語音声学1と共通です。最後の3章分を初めの3週でおさらい（英語音声学 を取らなかった人は概観）します。

第4--7週は、英語の歌や、詩を朗読練習します。この時、韻を踏む練習を通して、英語の母音・子音・半母音のおさらいができます。

第8--11週は、英語の絵本を朗読練習します。

第12--14週は、イントネーションを専門に扱った教材（絶版の本）を紹介する予定です。

第15週は、まとめです。

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% （小テスト（適宜）、予習、実技録音課題提出）

授業外学習

【事前学習】初回から第3週までは、教科書の最後の3章を利用して、教科書付属CD音声の発音練習を行ってください。第4週以降は、教室で指示する英文の朗読練習をしてください。平均毎週1時間。

【事後学修】授業で指示した素材の復習発音練習に、毎週30分はかけて下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著 『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	ことばへの気づきワークショップ		
担当教員名	向後 朋美、設楽 優子		
ナンバリング	KBe382		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。「ことばのしくみ」と「英語音声学I」で学んだことをふまえるため、この2科目を履修していることが履修の条件となる。また、少なくとも「英語学」「英語音声学II」と同時か、または履修後に履修することが望ましい。

科目の概要

ことばのしくみや働きについての関心を深め、ことばの楽しさ、豊かさに気づくことができるように、協同学習を取り入れた授業を行う。また、小学校外国語活動とのつながりや活用法についても解説を加える。

学修目標 (= 到達目標)

対象言語としては、まずは母語である日本語、次に英語と比較しながら、両者の仕組みや働きの共通性と相違性を明示的に示せるようになることを目指す。また、日本語音声教育と英語フォニックス教育の知見を活かし、日本語音声(特にピッチアクセント)と英語音声の両体系への気づきを通して、初期の英語学習者の前で自信を持って英語を発音する力を養う。

内容

1	ガイダンス：向後
2	アクセントと複合語：設楽
3	フォニックス(典型的な読み方)：設楽
4	フォニックス(多対多の対応)：設楽
5	フォニックス(米語のr関係)：設楽
6	リズム(挨拶と教室英語)：設楽
7	リズム(文法チャンツ等)：設楽
8	語のしくみ(いろいろな意味を持つ言葉・同じ読み方の漢字)：向後
9	語のしくみ(似た意味の言葉・和語・漢語・外来語・反対の意味の言葉)：向後
10	語のしくみ(なかまの言葉と漢字・熟語の意味と成り立ち)：向後
11	語のしくみ(複合語)：向後
12	文のしくみ(言葉を分類する・主語と述語)：向後
13	文のしくみ(ようすをあらわすことば・修飾語)：向後
14	文のしくみ(文の組み立て・ことばの法則と例外)：向後
15	まとめ：向後

評価

平常点(課題、授業への参加度)50%、授業内の発表・教材作成50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】ワークショップ形式の授業の前には、発表できるような形の教材を作成の準備をすること(1時間程度)

【事後学修】演習の内容を踏まえて、発表教材の構想を練っておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

大津由紀雄・窪園晴夫(2008), 『ことばの力を育む』, 慶應義塾大学出版会. 1600円+税

国際交流基金・磯村 一弘(2009), 『音声を教える(国際交流基金日本語教授法シリーズ2)』, ひつじ書房. 1500円+税

中村良夫他(2015), 『小学校英語の発音と指導』, 開拓社. 2200円+税

科目名	英米文学の流れ		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング	KBe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア (人間の発見)
- (4) 18世紀・・・小説の始まり (写実と諷刺の精神)
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン (非日常と日常)
- (6) ローマン派詩人 (感情の解放)
- (7) ヴィクトリア朝の小説 (ディケンズとブロンテ姉妹)
- (8) イギリス児童文学 (ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター)
- (9) 世紀末文学 (審美主義)
- (10) 20世紀「意識の流れ」の小説 (ジョイスとウルフ)
- (11) 生命の哲学 (ロレンスとフォースター)

《米文学》

- (12) 19世紀のピューリタニズムと小説 (ホーソンとメルヴィル)
- (13) 20世紀初頭の自然主義文学 (アメリカの悲劇)
- (14) 20年代の「失われた世代」 (虚無と退廃の戦後文学)
- (15) 30年代の社会主義文学とその後 (現代文明批判)

評価

課題レポート50点、授業への参加状況50点の割合で評価をし、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらいます。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来るようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	英米小説と女性		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング	KBe384		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代に新しいタイプの人間像が誕生する経緯を捉えながら、その今日的な意味を検討する。

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる脇役の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな生き様、有りようを、時代背景と照らし合わせながら、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性に焦点をしばって、具体的な場面設定の中で捉える。 その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日に生きる英知をさぐる。

内容

毎週、19、20世紀の英米小説を一作ずつ取り上げ、ストーリーの流れの中で女性の生き方を検討する。象徴的ないしは劇的な場面を映像で印象付けるようにする。

授業終了時に一口感想を指定の用紙に書いて提出してもらう。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： ウィリアム・メックピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第6回： ナサニエル・ホーソーン『緋文字』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『テス』
- 第10回： E・M・フォスター『ハワーズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回： マーガレット・ドラブル『礪臼』

評価

課題レポート50点、授業への参加状況50点の割合で評価をし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらう。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KBe385		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科選択科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 (言語、非言語) が充分でないからなのか、それとも、考え方 (文化) が違うからなのだろうか。授業では、特に英語圏の文化を比較の対象としながらコミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容	
1	異文化コミュニケーション研究の歴史 (1) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 (2) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション (1) ; 動作
7	非言語コミュニケーション (2) : 外見
8	言語によるコミュニケーション (1) : 英語と日本語
9	言語によるコミュニケーション (2) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション : 国際公用語としての英語
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石井敏他 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 2013年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	比較文化論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KBe386		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語教諭資格関連分野の科目となります。『異文化コミュニケーション』と同様、異文化への理解を深めていきます。

科目の概要

グローバル社会においては異なる文化をもつ人々への理解と尊重が必要となってきます。各文化の思考や様式に関する知識を身につけるとともに、自文化の持つ非常識・常識の概念を見つめし多様な文化を複眼的にとらえる力を養っていきます。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 多文化社会の課題、問題点について深く考察すること
- (2) 異なる文化と比較しながら日本の文化について自分の考えを述べること

内容

異文化 (主に欧米) の日常的な文化事象を取り上げながら、日本文化における類似の事象や日本人のとらえかたについてグループ、または全員で考えていきます。また、外国人にとって理解し難い日本の習慣や文化についても具体的な例をあげながら、その理由や背景にある事情について考察していきます。

1	ガイダンス (授業の進め方、自己紹介など)
2	文化とは何か、比較文化とは何か
3	食生活の比較 (お粗末な料理、グルメなのかゲテモノ好きなのかなど)
4	食生活 (世界の和食)
5	住生活 (ベッドと布団、きれい好きの国、家具にこだわる国など)
6	社会生活とマナー (相手と目を合わすか合わさないか、勤勉家と楽道家など)
7	ことば (近隣国の言語との戦い、日本語は世界の言語になれる? など)
8	教育 (自主性を伸ばす教育、ユニークな教育大国、つめこみ教育など)
9	年中行事 (バレンタインデーやクリスマスの違いなど)
10	娯楽 (演劇、映画、伝統芸能など)
11	芸術文化 (日本ブーム、日本で人気の海外文学作品など)
12	世界から見た日本 (ジョーク集に出てくる日本人)
13	まとめ
14	プレゼンテーション 1
15	プレゼンテーション 2

評価

授業への参加度30%、毎回のコメント10%とし、プレゼンテーション (発表) 60%で総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備/事後学修】身近な出来事を通して、文化的意味や背景について常に考えるように心掛けること。最後にプレゼンテーションを行うので、日ごろからメディア等で報道される問題に関心を持って資料を集めるようにしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【参考図書】教室で紹介する